



させぼ夢大学

発行 ● させぼ夢大学
広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.175 <2009・7>

平成21年度
第4回

2009年 7月23日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

「いやっ、どうもどうも!」「はいはいはいはい」といった天性の明るさと軽妙な口調で、テレビ・ラジオ番組の司会者、リポーターとしても人気者の落語家三笑亭夢之助さんをお迎えます。

夢之助さんは高校時代から落語に親しみ、昭和43年、三笑亭夢楽に入門。その年に三笑亭夢丸の名で高座に上り、47年二つ目に昇進後「夢之助」を襲名されました。51年「フジテレビ演芸大賞ホープ賞」を受賞、58年、真打に昇進。本業の落語とともに



講演活動など多岐にわたり活躍中で、落語家ならではの視点からのお話は好評を博しています。

喋りはコミュニケーションだけでなく、脳のストレス解消や活性化に効果があり、病気にならないための予防の一つとも言われます。

心の健康に今や「笑い」は欠かせることのできないものです。人生には笑いが必要です。きっと、笑いをもって生き生きと過ごすためのヒントがいただけることでしょう。

さんしょうてい ゆめのすけ

講 師 ● 落語家 **三笑亭 夢之助氏**

テーマ ● **健康は笑いから**



写真提供: 草思社

次回のご案内

- と き / 9月16日(水)
- 講 師 / 明治大学文学部教授
齋藤 孝氏
- テーマ / コミュニケーションを拡げる日本語の力

●昭和35年静岡県生まれ。東京大学法学部を卒業。同大学院教育学研究科博士課程を経て現職。専門は、教育学、身体論、コミュニケーション技法。平成13年に出した「声に出して読みたい日本語」(毎日出版文化賞特別賞)がシリーズ250万部のベストセラーになり日本語ブームが起る。著書に「身体感覚を取り戻す」(新潮学芸賞)など多数。前文化庁文化審議会国語分科会委員。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」総合指導。TBS「情報7days ニュースキャスター」のコメンテーターとして、レギュラー出演中。

三笑亭 夢之助氏のプロフィール

●昭和24年北海道札幌市生まれ。43年三笑亭夢楽に入門。58年、真打に昇進。新宿末広亭をはじめ、各寄席に出演すると共に、年2回の独演会を国立演芸場で開催している。底抜けに明るい口調と、機転がきくキャラクターでテレビ番組等の司会者、リポーターとしても活躍中。





サイ・イエンガン氏

三行感徳文 夢のとびら

■最後のアンコールにサプライズが待っていた。「九十九詩人」と、世の頑張っている父親に捧げると前置きでの「私のお父さん」の独唱は父の日の最大のプレゼントになった。仕掛け人の理事長さんとサイさんにシェシェ(謝辞)。

光月町●国松 仁志

■美しい容姿とすばらしい歌声に4年前の感動がよみがえりました。サイ・イエンガン様程、何もかもそなえておられる方が他にいらっしゃるのでしょくか?よくぞ、西の果て佐世保までお越し下さり、本当にありがとうございました。美しいお声忘れません。思いがけない「長崎の鐘」「私のお父さん」「九十九詩人」もさすがです。すばらしいです。幸せに思います。きっと次回もお会い出来ますことを願って!!

潮見町●永田 登子

■夢大学に来て3度目に初めてサイ・イエンガンさんを知った。登場されると姿勢が良く、美人ですばらしい歌声に鳥肌が立った。ソプラノの見事な声に感動し、この出会いに感謝したい気持ちになった。素敵な歌声をありがとう!!「九十九詩人」と「長崎の鐘」最高でした。

広田3丁目●藤本 良子

■颯爽と舞台上に現れたサイさんの、美貌と品格、声の響きの何ともいえない素晴らしさ。夢の中に吸い込まれそうで、本当に感激しました。ありがとうございます一言です。

神島町●田淵 誠子

■素晴らしいの一言、あと言葉は無用の感動でした。「九十九詩人」サイさんの歌声で一層名曲になったようです。夢大学でサイさんのコンサートに出会えたこと感謝致します。

川棚町●福田 ツネヨ

■ソプラノのすばらしい歌声は夢ごちでした。生でサイ・イエンガンさんの歌を聞けるなんて幸せです。夢大学のスタッフの皆様ありがとうございました。

江迎町●山口美津枝

■夢のようなすばらしいひとときを過ごさせてもらいました。心から喜びました。感謝!!

春日町●有吉 成子

■これぞ魅惑というべき声なのでしょうね。同じ人間の喉から幽玄的な声が出るなんてまるで夢の世界のようでした。ここは夢大学ですからでしょうか…フッフッフ。酔いしれたひとときを有り難うございました。

折橋町●田口 清紀

■神秘的とも言える高音域コロラトゥーラの旋律に感嘆し、爽やかな美声を心ゆくまで堪能した。又、夢大学の校歌?とも言える「九十九詩人」を思いもかけずサイさんの歌声で聴けた事は何よりも嬉しいプレゼントで、心より感動を覚えると共に、この詩と曲の素晴らしさを改めて感じた。

花高●土井 芳生

■させば夢大学は、2度目とのことでしたが、私にとっては初めてで、楽しみに出席。美しい容姿の中に溢れるばかりの音量。「神から与えられた美声」そのものの中に、たっぷりと引き込まれ満喫した時間でした。夢大学の企画に感謝。

船越町●田代 昌代

■サイ・イエンガンさんの歌、中村文美さんのピアノ伴奏、とてもすばらしかった。また夢大学のみなさんの聴く態度が非常に良かった。歌の直前のシーンと静まりかえったあの瞬間。何ともいえない雰囲気が高かった。

天神町●青木 哲夫

■オペラは観た事はありませんが、今日は素敵な声を聞かせていただき、夢のようなコンサートを夢大学で聞けるとは本当に感激しました。

木風町●西 照美

透明な天使の歌声に感激！

ますますファンに

天神5丁目 河野 千恵子

私がサイ・イエングアンさんの歌を聞いたのは今回で三度目。一回目から大ファンになってしまった。美しいコロラトゥーラ・ソプラノ、美貌、優雅さ、色気、スタイル、何をとつてもすばらしい。完璧。女性にとつてはドレスもとても楽しみ。今回は何色のドレスだろうと友達と当てっこ（一人とも当たらなかったけど）。黒と白、色もデザインも対照的だけど、どちらも良くお似合いだった。

大好きな「落葉松」や、あまり聞く機会がない「オペラアリア」など、本当に堪能させていただいた。アンコールは三曲も歌って下さった。本番だけでも相当にお疲れのはず。私達聞く方は、とても嬉しかったが、申し訳ない気がします。

「九十九詩人」は私も大好きな曲で、コーラス部に入部していた時歌ったが、歌詞を覚えるのに苦労した。短時間にほとんど完璧に近く覚えて歌われたのはさすがプロ。脱帽。終了後、ロビーにて間近に拝見し、その美貌にますますファンに。凶々しくも握手までしていただき、天にも昇るような気持ち。

すばらしいコンサートに酔いしれながら、企画して下さい

った夢大学のスタッフの方々に感謝、感謝で帰宅。

天使の歌声に感動！

栄町 東 節子

サイ・イエングアンさんの熱烈なファンを自認している私にとつて、今回は三回目の再会でした。相変わらずシツクなお姿で、玉を転がす様に透明な天使の歌声、音楽性の非凡な才能、そして顔よし、プロポーションよし、ファンサービス最高、マナー抜群、気品溢れる優雅な身のこなしにただうっとり見つめるだけ・・・。更に彼女は中国大連のご出身ですが、私も戦前大連で生まれ育った同胞として、より一層の親近感を自分勝手に抱いている



のです。大連というあまりにもささやかな接点があるだけで、ファンの心理として自己満足しているというのはいじらしいではありませんか。

今回の選曲も納得のいくものでした。第一部は世界の名曲。「慕情」と「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」はいつも我が家に流れている馴染みの曲・・・。次の「初恋」「宵待草」「落葉松」は我々熟年世代が自然に口ずさみたくなる懐かしい愛唱歌ばかり・・・。更に

「夜来香」「何日君再来」は何を隠そう若かりし頃の私が歌いまくっていた十八番の曲なのです。第二部は有名なオペラアリアで、さすがサイさんの本領発揮、情感たっぷり高音のピアノニッシモ迄、会場一杯に響きわたりました。相変わらず手を振って何度も聴衆に微笑み乍ら、退場なさるお姿も全く変わっていませんでした。

花束を持ってこられた方が、サツサと引き返そうとなさったので、サイさんがあわてて手を差ししのべ乍ら、待つていらっしやるほどのとした自然体も印象的でした。その花束を大事にかかえ、優しく温かいトークもたっぷり聞かせて下さいました。最後のアンコール

も最高！まず最初に近藤理事長からのリクエエストで「九十九詩人」を心を込めて熱唱。次は喜多郎さんと共演なさった「長崎の鐘」を・・・。更に「もう一曲用意しています」とおっしゃって、一度も楽屋に戻る事なく、理事長が冒頭ぼやいた影の薄い父の為に「私のお父さん」までご披露下さったプロ根性にはただただ頭が下がりました。

で、彼女の独壇場だなあと感心しながら、心のどこかで一緒に歌っている自分がいるのを発見して、ハッと我にかえりました。

一方「宵待草」は皆さんどう思ってた聴かれましたでしょうか。私は無理矢理目をつぶって聴きましたが、どうしても竹久夢二が浮かびません。やっぱりこの曲は「いしだあゆみ」みたいな折れて倒れそうな人が似合うのかなあと思います。

感動!!感動!!のひとときがあつという間に過ぎて、ファンとしての私の思い入れば、益々深く熱く燃え上がった一夜となりました。

「九十九詩人」は選曲に無理がありテストされてるようで可哀相でした。その点、最後の「私のお父さん」は充分に歌いこなされ、表情も演技力も伴ったすばらしい逸品でした。

異変町 吉野 旭

笑顔ありがとう

サイ・イエングアンさんとはにかく笑顔の美しい人でした。四年前、夢大学で聴いた「魔笛」の「夜の女王」の強烈な印象が残っているだけに、今回の公演には大きな期待で臨みました。

サイ・イエングアンさんは最後まで笑顔の美しい人でした。国際親善使節としても通用するような笑顔の方でした。

一昨年の新垣勉さんの感動につづき、今年の笑顔もずっと忘れないうでしょう。

圧巻は「椿姫」。マイクを使わない生の声の発声とボリウムには圧倒され、今まで何度も聴いていたレコードとは全く違う感動を覚えました。

また遠くない日には是非： 昨夜の夢のようなコンサート。今朝もまだ余韻に浸っております。

又「愛する小鳥よ」の小鳥たちの声は、コロラトゥーラ・ソプラノ独特の節回し

日野町 谷 節子 崔岩光さん、ありがと



う！感謝を伝えたくてペンを取りました。

崔さんの優雅な姿形。会場にこぼれ溢れる、深く透明感がある歌声に、言葉では表現できない程の感動をいただきました。

テレサ・テンさんの曲、「長崎の鐘」などに込められた平和への思い、心に深く伝わりました。

崔さんの歌声がもつとつと世界に届けば、平和が見えるような、そんな希望を抱きました。

アンコールで歌われた「九十九詩人」。一生懸命に詩をたどっておられました。私もたどりながら、いつも何気なく聴いている歌詞の美しさを改めて感じました。

近藤理事長、スタッフの皆様、すばらしいひと時、ありがとうございました。また遠くない日に、崔岩光さんのコンサートを期待しながらペンを置きます。

透明な歌声に惚ぐ大連

大塚町 富永 八重子

平成十七年の五月にサイ・イエングアンさんの美しい歌声を聞いてから四年ぶりの再会でした。

目を閉じて「慕情」を聞く、正に至福の時、懐かしい映画の名シーンが浮かびます。

日本古来の歌も彼女のコロラトゥーラというソプラノにかかると、一級芸術作品です。歌を聞き乍ら、ふと彼女を育んだ中国大連という地を思い浮かべておりました。私の尊敬する方が大連で過ごした青春を、写真集にして出されたものをいただいで、アカシヤの花咲く広大で美しい地という印象があるものですから、世界のステージで脚光を浴びる彼女のスケールの大きさと大連とが結びついたような気がしたのです。

それから、「九十九詩人」も彼女の声にかかると正に名曲、ひと味もふた味も違うと感じました。

私達庶民の人生は、大方にして平凡な日常の明け暮れですが、夢大学に入って、この様な上質な時間にめぐり逢える喜びをかみしめたひとときでした。

ちなみに帰り径、友人との会話

「ねえ、彼女、洗濯とかさすとー？」

「米も研がっさんよね」「させたくなかよね」

「うん・・・」

サイ・イエングアンさん、感動をありがとう。あなたはその美しい声を守ることに専念して下さい。世界中のファンのために・・・。

さすが国際的アーティスト！

京坪町 東 裕子

本物のオペラ鑑賞に臨む前に少し知識を...と辞書で「コロラトゥーラ」の意を引いた。「十八世紀、十九世紀のイタリア歌劇でソプラノ独唱などで行われる装飾に富んだ技巧的独唱法」...と記してあった。なるほど、誰もが簡単に出来る音域ではない最高音域のソプラノの素晴らしさにただただ驚き、聴き入った。

世界的に愛されるコロラトゥーラ・ソプラノのサイ・イエングアンさんの生まれつきの才能と、それ以上に切磋琢磨と日々の訓練と努力によって現在の素晴らしい彼女の存在であると思う。

歌劇「蝶々夫人」から「ある晴れた日に」「かわいい坊や」でのドラマティックで叙情的表現に感動。

「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」そして父の目の前に、歌劇ジャンニ・スキッキの「私のお父さん」にも心が和んだ。

又、「九十九詩人」も立派なオペラと化し、これにも感動！

音楽なら何でも大好きですが、本物のオペラに出会えたこの上もない幸せに、心より感謝感激であった。

夢のひろば

- ◆ 日 時 / 7月23日(木) 午後6時00分～20分
- ◆ 演 目 / クラシックギター
- ◆ 出 演 / ギター文化研究会 代表 近藤 智
- ◆ 出演者紹介

北松浦郡佐々町出身、長崎県立大学卒業。大学時代は、ギターマンドリン部に所属し、卒業後は佐々町にてギター文化研究会の代表として県北を中心に、クラシックギターの演奏活動を行っている。

様々な場所で演奏活動を行うことで、クラシックギターのジャンルにとらわれないスタイルが特徴で、オリジナル曲や懐かしい名曲も演奏している。

◆ 曲 目

1. 禁じられた遊び / スペイン民謡
映画「禁じられた遊び」の主題曲で、クラシックギターの定番であり、世界中で知られる名曲である。
2. アルハンブラの想い出 / F. タルシ 作曲
クラシックギターと言えば必ず思い浮かび、皆があこがれる名曲。
3. グリーン・スリープス / イギリス民謡
一度は耳にしたことがある、ルネサンス時代から受け継がれているイギリス民謡。
4. イエスタデー / ポール・マッカートニー 作詞・作曲
ビートルズの曲の中でも特に有名な曲。
5. ミッドナイトララバイ / 近藤 智 作曲
大学時代に作曲したもので、佐世保市アーケード街の夜をイメージした曲。



魅せられた

南風崎町 横山 春美

恒例の近藤理事長さんのユーマラスな挨拶は、毎回の楽しみである。今回は「父の日」にちなんだ話。確かに「母の日」がメジャーとすれば、「父の日」はマイナーであることは否めない。やはり「母は強し」か。まあ、「父の日」があることだけでも良しとしよう。

さて、今回はサイ・イエングアンさんのコンサート。名前も初めて聞いたが、「コロラトゥーラ・ソプラノ」ということばも初めて耳にした。黒のコスチュームで颯爽と登場。「慕情」の熱唱で幕を開

講演を聴かれた感想をお待ちしています！ ※締め切りは講演日の1週間後(必着)

けた。「世界の名曲」として、「宵待草」など日本の三曲も歌われたことに、少々誇りを感じた。想像していた以上の更なる高音には正直びっくりした。会場からも驚嘆の声が上がっていた。

第二部では、対照的な白のコスチュームで登場。第一部ではトークが無かったのに、硬い雰囲気だったが、一転トークが入り和んだ雰囲気。客席にも気軽に手を振り、ユーマも交えた話は結構楽しかった。その中で平和についての話も。やはり何事も平和であればこそと思う。サイさんは中国の人。その美声を通して、日中両国の、そして世

界の「平和のかけはし」として活躍していただきたい。

ラストの曲は長崎ゆかりの歌劇「蝶々夫人」より二曲。そしてアンコールは「九十九詩人」、更には「長崎の鐘」を熱唱。選曲にも旺盛なサイビス精神が感じられた。世界的な美声に魅せられ、いっっぱいの満足感を胸に家路に着いた。

我待君再来

田原町 藤井 文夫

美しい歌声は大ホールに満ち、満場の観客は酔いしれていた。中国の大連で生まれ育

った歌姫が、日本人特有と思っていた心の襞、石川啄木の初恋、竹久夢二の宵待草、野上彰の落葉松とみごとに歌い上げ、本来の中国の歌では抜けるような美しいソプラノをコロコロと中国雑伎団のように展開してみせた。そのテクニクと音量に酔っていたのだ。

第二部では聞き慣れたクラシック名曲の中から、ソプラノが美しい名曲を聴かせてもらった。特に長崎を舞台としたブッチーニの歌劇「蝶々夫人」から「ある晴れた日に」、悲劇の最後を歌った「かわい坊や」を聴いていると、感情移入して胸が詰まり涙が溢れていた。心洗われるひと時だった。

アンコールでの「九十九詩人」の歌唱もすばらしかった。観客二千人の私達は何度も歌い知っている。その人々の前で初見で歌うのはちょっと自信なさそうだった。まさに初見独唱テストを受験する気持ちだったのでしよう。でも皆さんからの沢山の拍手を貰うと、「次は練習して立派に歌うからね！」と嬉しい言葉を聞かせて貰った。



天は二物を与えずと言うが

京坪町 太郎浦 幸三子

「天は二物を与えず」と言うが、容姿端麗、美声、柔和なお人柄を兼ね備えておられる氏のベストアルバムコンサートの一言で「素晴らしかった！」の一言では申し訳ないような気がする。国際的なアーティストの声をこの耳で聴いた感動は、私の脳裏に何時までもとどめておきたい。アンコールにも快く応えて戴き、「九十九詩人」を朗々と歌いあげられたが、私の拙文では適切な表現ができないくらいの感動ものだったと同時に、この曲の名曲として位置づけを再認識させられた。

隣席の男性は「ブラボー！」と声を出し、「父の日の前祝いだっ」と喜んでおいでだったのが印象的だった。



ふるさと 北松紀行

4

潜龍の滝

江迎町史談会 会員
石田 忠

て、上流で不浄のものを洗うことを禁じた。神体は直ちに滝で、御宝殿は直ちに湖である。そのほかに社殿などないものと心得ねばならぬ、と。

これによって滝の入り口には鳥居を建立し、道路と案内碑の新設、門の新設とその開閉のことから、事後の年々の祭のことにいたるまで指示をされた。

そのことは、観中公自筆の書付けとして今も猪調地区の鈴木家に残されている。

滝の入り口には石垣を築いて石門を設け、銅製の扉をつけていたが、現在は石門だけが残っている。

石門の右下に『此所より内不浄のもの立ち入るべからず』と記された石柱が立っている。

石門から約十メートル進むと、鳥居と二基の灯籠がある。鳥居には「龍門」の石額が掲げられてあり、裏に「文久三年八月三日肥前守従五位源朝臣熙」の銘文があり、石灯籠には「天保十四年八月」の銘がある。

鳥居の左側にも『是より内はきもの無用』の禁制の石柱がおかれている。これらは、すべて観中公の自署であるといわれている。公は書に秀で、特に「額法」を研鑽して、藩内の神社、寺院、石碑、その他の額などに名筆をふるわれた。これは同じく平戸領地方八奇勝の一つである小佐々町の「大悲観」の巨巖の大文字は人の知るところである。なかでもこの鳥居の「龍門」の文字は、公の書中でも出色のきばえだといわれている。

MR潜竜ヶ滝駅から北へ約二キロ、徒歩十分のところ、佐世保市吉井町と江迎町との境の断崖にかかる名瀑で、平戸領地方(ちかた)八奇勝の一つであり、かつて長崎県観光地二十選でも第一位に選ばれたことがある。

滝は高さ二十メートル余、滝壺の深さは六メートルばかりで、清流は男滝、女滝の二つに分かれて流れ落ちている。滝壺に落ちた水は、また二筋に分かれて、「布引の滝」「不動の滝」となっており、まことに壯観である。

平戸松浦三十五代観中公熙(ひろむ)は、文政十一年(一八二八)九月十一日の長崎出張の折、年来の宿望であったこの滝に来て、そのすばらしさに強く心を打たれ「潜龍の滝」と命名した。

観中公は、この滝を神として祭り、あたりを荘厳な神域とした。



潜龍の滝

なお、この滝を地元でも「潜竜ヶ滝」と呼ぶ人が多く、駅名にもなっている。しかしながら観中公の命名は「潜龍の滝」である。このことは、駅前国道から滝入り口に「文政十三年九月十二日」の銘のある「勢んりゅう乃滝へ是より十六丁」の石の標札があるが、これも公が自ら下書きを手渡し、ここへの建立を指示されたものであり、やっぱり全国の滝がそうであるように「：の滝」であったことを表している。

地元の新・旧の「江迎町郷土誌」においても「潜龍の滝」と呼んでいるところである。

●黒島の文化財に説明板・標柱が設置されました！

「九十九詩人」の楽曲制作に心血を注いでいただいた、作曲家・ピアニストの羽田健太郎さんの追悼と、悠久の九十九島を歌い上げる「九十九詩人」の更なる広がりを願って、平成19年12月に「羽田健太郎追悼チャリティコンサート」を開催しました。その募金の全額を黒島の文化財保護・顕彰に役立ててほしいと、佐世保市文化振興基金にお届けしていただきましたところ、その募金が活用され、昨年

末に標柱3基、説明板5基が完成しました。

募金をしてくださった多くの皆様に改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

●開かれましたか「夢大のホームページ」?

4月に開設しましたさっぽろ大学のホームページ、多くの方々のアクセスの陰で「さっぽろ夢大」で検索したら、トップに表示されるようになりました。

7月1日現在で1,374件アクセスされていて、少しずつ広がりを見せ活用されています。基本的には「夢のつづき」でお知らせしますが、過去の「夢のつづき」などもご覧いただけます。



国指定重要文化財 黒島天主堂